2026 年 11 月 20 日

プラップノード株式会社

【イベントレポート】日本広報学会 第 32 回研究発表全国大会
プラップノード COO 雨宮の研究チームが広報部門の生成 AI 導入をテーマに調査発表

教室は満席、立ち見を含む 50 人以上が聴講する盛況に

日本広報学会が 2026 年 11 月 7 日（土）、8 日（日）に東京経済大学で実施した「第 32 回 研究発表 全国大会」にて、プラップノード株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役 CEO：渡辺幸光）の取締役 COO・雨宮徳左衛門が主査を務め、同社の野中透も参画する 4 人の研究チームが、「広報部門における生成 AI 活用調査（第 2 回）から展望する生成 AI と広報の現在地」をテーマに研究発表を行いました。当日は雨宮が発表者として昨年に続き 2 年連続で登壇。会場は満席となり、立ち見を含む 50 人以上が聴講しました。





■生成 AI を導入済みとした回答の割合が、1 年で 2 倍超に

発表では、国内の広報関係者を対象とした定点調査から、所属先で生成 AI を導入済みとした回答の割合が、2024 年の 37.2%から 2025 年の 77.0%へと、1 年で 2 倍を超えたことを報告しました。また、導入の急拡大とともに、広報実務での使われ方や、運用上の課題にも焦点を当てました。導入済みの回答者が最も多く挙げた懸念は、生成 AI の出力の正確性でした。

発表後は聴講者から複数の質問が寄せられ、進行中の第 3 回調査への参加方法を尋ねる声もありました。

調査結果の出典　https://www.jsccs.jp/activity/report/ai77-20252-ai.html

■「生成 AI を活用した広報研究会」について

日本広報学会「生成 AI を活用した広報研究会」は、広報業務での生成 AI の活用実態を把握するため、雨宮が主査となり 2024 年に発足しました。今回の発表では、丸山信人氏（学習院大学）が国内の調査結果を追加分析し、和田仁氏（公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団）が海外の関連調査を整理しました。主査の雨宮徳左衛門と、野中透（ともにプラップノード）を含む 4 人で研究を進めています。

現在進行中の第 3 回調査では、生成 AI の導入・活用状況に加え、生成 AI の高度利用や AIO（AI 検索最適化）の認知度・取り組み状況にも調査対象を広げています。これにより、広報におけるオペレーション変革の進展度合いと、AI が情報の入口となる環境への対応状況を把握し、今後の広報のあり方を展望します。

今回の研究発表の内容や当日の発表資料については、リリース下部のお問い合わせ先までご連絡ください。

■日本広報学会 第 32 回 研究発表 全国大会について

日本広報学会が主催する、広報に関する研究成果の発表および情報交換・交流を目的とした全国大会です。第 32 回は 2026 年 11 月 7 日・8 日に東京経済大学で開催され、「経営戦略としてのコーポレート・コミュニケーション」を統一論題に、企業価値や信頼の構築における広報の役割を議論しました。企業の経営トップによる基調講演・パネルディスカッションに加え、多様なテーマの研究発表が行われました。

URL：https://www.jsccs.jp/activity/convention/32.html

■プラップノード株式会社　会社概要

プラップノード株式会社

設立：2020 年 3 月 2 日

代表者：渡辺幸光

資本金：2 億円（資本準備金を含む）

事業内容：デジタルコミュニケーション領域におけるソリューション提供、PR オートメーション・LOGO LABO の開発販売

URL：https://www.prapnode.co.jp/　https://pr-automation.jp/　https://logo-labo.jp/

【 本件に関するお問い合せ先 】

プラップノード株式会社　伊藤

TEL：03-4570-3150　Mail：pr@prapnode.co.jp